

第12回地域医療機構りつりん病院地域協議会次第

日 時：令和4年3月23日（水）

場 所：書面開催

議 題

（1）概況報告

院 長 大森 浩二

（2）患者動向・事業概況について

事務長 山崎 和樹

（3）新型コロナウイルス感染症陽性者トリアージについて

看護部長 美濃 久美子

(1) 概況報告

○経営状況

2021年6月22日に本部の経営改善指導を受けて以降、各部署の目標値の達成状況を月例の経営改善会議で確認し、話し合って経営改善に努めた。高度急性期病院からの”下り患者”の転院受入れや、急性期患者の新規受入れにより、内科、整形外科の入院患者数が回復し、COVID-19関連の補償などを含めて、2022年1月までで、累計で3億5千万円の黒字となった。しかし、空床補償が入金されなかった12月、1月、2月は赤字であり、外科の患者数の低迷が一因と思われた。

○COVID-19関連の取組み

前回以降も同様に、陽性患者を受け入れている。香川県が2022年1月13日に警戒レベル3に入ってからでは即応病床数を4床増床して10床として、主に高松市保健所からの受け入れ要請に対応している。同様に陽性患者のトリアージ外来もほぼ毎日、17時30分からと、輪番指定により、土日、祝日にも開設しており、放射線科以外のすべての診療科の医師がこれに当たっている。帰国者・接触者・発熱外来は外科、内科が当番制で担当、これも月～金の午後に開設している。2月からは、各種治療薬の外来投与、入院投与を行っている。ワクチンは、職員の3回目接種を終えて、現在、地域住民を対象に、3回目を行っている。第6波の高止まり、第7波に対応するため、3月16日にはNEAR法による核酸検出検査装置を1台新規に追加導入した。

○機器・設備の整備

画像サーバーの更新、血管撮影装置の更新、冷房用冷却塔の整備、健康管理センターのX線装置の更新が本部に承認された。また既に、フラップ板式の第二駐車場を整備し、2022年12月1日より供用開始した。

○改修・修繕・環境整備

本部のインフラ長寿命化計画にも呼応して、当面、建て替えではなく、院内の修繕を行っている。すでに、外来のトイレの修繕を行った。現在、外来の廊下、待合室などの修繕を行っている。

○新年度に向けての主な人事

看護部長と事務長が定年退職し、ともに JCHO 玉造病院から新規着任する。また、内科、循環器内科、整形外科の常勤医師がそれぞれ 1 名ずつ増員となる。

○課題

2024 年度に本格施行の医師の働き方改革への対応。年間 960 時間を超える医師はいないと予想されるが、勤務時間管理の仕組みを整備する必要があり、また、長時間労働の予防のための、タスクシフトなどへの取り組みが指示されている。消化器専門の常勤医師については、重要な継続課題である。大学医局との良好な関係を維持していきたい。

(2) 患者動向・事業概況について

○年度別・月別・一日平均患者数（入院）

令和 3 年度の 1 月までの一日平均入院患者数は 136.8 人となり、昨年度と比べ+4.2 人と改善していますが、一昨年度と比べますと-19.8 人と大きく減少しています。新型コロナウイルス感染症による影響が主な要因だと考えられます。

○年度別・月別・一日平均患者数（外来）

令和 3 年度の 1 月までの一日平均外来患者数は 317.2 人となり、昨年度と比べ+4.5 人と改善していますが、入院同様に一昨年度と比べますと-69.7 大きく減少しています。新型コロナウイルス感染症による受診控えや新型コロナウイルス感染症に伴う外来リハビリテーションの中止等が主な要因だと考えられます。

○医業収益推移

令和 3 年度は、病院においては、令和 2 年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により外来患者数・入院患者共にコロナ前と比較し減少していますが、令和 2 年度比較では、患者数・収益共に改善傾向にあります。また、健康管理センターにおいても、三密を避けるため予約枠の減少等がありましたが、徐々に回復し、コロナワクチン収益 28,023 千円もあり、1 月累計では前年度を上回りました。

令和 2 年度と令和 3 年度の 1 月までの累計の比較は、

2,895,117 千円 ⇒ 3,042,436 千円 対前年度+147,319 千円となっています。

○医業費用推移

令和3年度は、医薬品費が後発医薬品への置き換えにより2,879千円減少、本部からの指導による委託費の削減交渉等により22,822千円減少でありましたが、賞与の引き上げにより給与費が65,847千円の増加となりました。また、医療機器の保守・修繕費の増加で、設備関係費が16,738千円増加となりました。

令和2年度と令和3年度の1月までの累計の比較は、

3,000,681千円 ⇒ 3,070,145千円 対前年度+69,464千円となっています。

○総収支

今年度5月までは累計で-21,028千円と厳しいスタートとなりましたが、患者数の増加や経費削減、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援補助金（新型コロナウイルス感染症患者受入の為に空床補償）の交付により、1月までの累計では350,832千円の黒字に転じています。

(3) 新型コロナウイルス感染症陽性者トリアージについて

2019年12月、中華人民共和国武漢市において初めて感染確認されて以降、香川県では2020年3月17日に初めて陽性患者が確認されました。その後感染者が急増し、第4波となった2021年4月24日より、高松市の依頼を受けて当院での新型コロナウイルス感染症陽性患者を対象とする“コロナトリアージ”が始まりました。

コロナトリアージとは、コロナ陽性患者の重症度判定と療養先を決定する業務のことを言います。発生届を受けた保健所は、陽性患者をトリアージ担当病院に割り振り、患者に受診を案内（指示）します。

当院では、基本的感染対策として、一般患者とは時間分離を行っています。すなわち、トリアージ対象患者の受付開始時刻は一般外来診療が終了した17時20分としています。手順としては、まず、2020年末にいわゆるコロナ助成金により整備した陰圧装置を備えた第2救急室に案内し、バイタルサイン評価、採血を行い、その後、これも時間分離したCT検査へと誘導しています。これらの所見を医師が総合的に評価し、重症化判定を行い、自宅療養・宿泊施設入所・入院を決定し、保健所へ確認書を提出します。ほぼ全員に、アセトアミノフェンなどの対症療法薬を処方する一方、薬剤師の提案によ

り、抗ウイルス薬を処方したり、後日行う抗体薬の適応判定を行ったりもしています。診察と判定、確認書・紹介状の作成は、その日の日直・当直医師が診療科を問わず公平に担当します。これを看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員が連携してサポートすることにより、トリアージ業務が遂行されます。平日はほぼ毎日、2022年2月からは、高松市の要請で、休日・祭日も4回/月程度実施しており、2022年3月16日までに732名のトリアージを行いました。

トリアージ以外にも、ワクチンの住民接種、発熱外来（発熱・有症状患者を対象とするコロナ診断）、陽性患者の入院診療（即応病床）、外来治療、院外へのスタッフの派遣など、今後も、多くのコロナ関連業務に積極的・継続的に取り組むことによって、国や地域の医療に貢献していきたいと思っております。

（外部委員よりの意見）

・新たな提案はございません。医師増員見込みとのこと、今後さらに充実するといったなあと感じております。

コロナPCR検査当院で対応できない休日などでかかりつけ患者を数名がお世話になりありがとうございます。

・患者を紹介する際に、地域連携室スタッフに説明をした後、当該診療科から連絡がきますが、同様の内容を再度告げる必要があることがよくあります。

地域連携室と各科の情報共有を図っていただきたい。

（内部委員）

以下の体制を整えました。

1. 連携室にて「当日紹介患者受付票」内の聴取を行う。
2. 地域連携室より、受付票を該当診療科へ渡し、内容を伝達する。
3. 対象の診療科より速やかに折り返しのお電話をさせていただき、追加の情報を聴取する。

※尚、緊急の医療相談等につきましては診療科をご指示ください。時間外の場合には、日当直看護師が対応いたします。